

SHIN CLUB 68



SCALETTA (イタリア語ではしごという意味) 撮影:平 剛

今月のトーク

変化すること

地上6階建てのマンションに、銅製のがらり戸。このたび竣工した品川区のSCALETTAは、RC造の個性的な賃貸集合住宅です。

撮影時に訪れたとき、町全体のスケールの小ささにあふれる違和感を覚えました。古い建物ばかりではないのに、道も建物の高さも、隣り合う建物と建物の間さえ、都内に広がる他の普通の町よりも小さいのです。東京大空襲で焼け残った地域は、多くが今、その幸運とは裏腹に防災面では問題を抱えています。地震、火災などの際、適切な避難場所がない、あるいは狭い路地を抱えるため、避難経路の確保が難しい、火災の鎮火、救助活動を容易に行えないなど、防災危険地域となってしまうのです。

「建て主から、木造の住宅の建て替えのご相談を受けるとき、新しい建物の可能性とその建設にあたってのオーナーとしての責任について、詳しくご説明しました。」と設計にあたった内海智行氏。古い宿場町であるこの場所で、法的には可能な高さの建物でも、近隣に昔から住む住民の総意を得た建設を行うには、忍耐強い説明義務が伴います。建築にあたって、内海氏は、このようなデザイン性の高い集合住宅の企画を得意とするタカギブランニングオフィスを建て主に紹介し、事業としての採算性を再確認するとともに、「近隣説明会」で建物としての有効性を訴えました。

「どうしてあんな大きいものを、と言われましたが、今、現在これだけの密集地にあえて延焼性の高い木造住宅を建てる必要があるのか、変わっていくことを地域の方が受け入れてくれることも必要だと思ったんです。一人一人の住民は、この町がこのままでいいとは、思っていません。何とか変えていきたい、でもそのためにはどうすればいいのか、誰も基準とな

るものを共有できないでいるのです。」内海氏は、町を歩きながら、さまざまな思惑がからむ町の今後について考えたそうです。

「欧米に比べ、日本人は自分の住まいの内側の権利意識は非常に高いけれども、敷地の外、『公』についての意識が欠如しているんですね。」それは、そういう場面がなかったからであり、何とかきっかけとなるものを提示したかったと言う内海氏。以前青山での経験が、ある種の確信に繋がっていたのです。

「青山の裏通りに中規模の集合住宅を建てる計画でしたが、近隣の方にはやはり反対されました。バブルの後売り損じた人たちの鬱屈した思いもあったのでしょうか。しかし、こちらが頑張ってきた集合住宅を建てたので、その土地がどンドン人気を呼び、隣もその隣の敷地にもきれいなものが建ったんですね。3つきれいな集合住宅が並んだら、東京電力が電柱を移設し、歩道も整備され、非常にいい場所になったのです。」

「いい町とは、一つの基準となる建物がポテンシャルを持っています。それでどンドン街並みが変わっていく。それだけの価値を継続していくというふうになってきます。SCALETTAはシンプルな建物で、ことさら贅沢な建物ではないのですが、凜とした整合性を持たせ、中はユニークで、住民構成も変化が著しいこの地に若い人たちが住まうことができるように、と工夫しました。」

変化を恐れずに受け入れ、新しい価値を創造することは、建築だけでなく、多くの場面で今、求められているのではないかと感じました。

この地域が、これを機会に安全で快適な場所に生まれ変わればと願ってやみません。

SCALETTA (スカレッタ) 新築工事

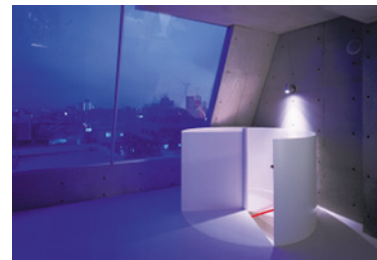


街の未来を見つめる小さなマンション

敷地は発展性のある都心の立地にありながら、戦後の古い木造住宅が今なお残り、区画整理がなかなか進まない下町の密集地である。今回の計画地も前面道路4mの狭小地であり、建て替えられた5層の建築物は、集合住宅とすれば極めて小規模にもかかわらず、軒が重なるほどに小さく立ち並んだ周辺の街並みからすれば突出して高く、相対的に異質なボリュームに見える。私たちはどんな場所でも既存の街並みの良さを見いだそうとするが、このケースでは現存への尊重よりも未来の街並みへの足掛かりを考えて、周辺に対してむしろ明確なコントラストを与える事にした。つまり、依頼主の事業性も考慮して最大限のボリュームを確保する方向である。しかし、それが無作為で乱暴な形態ではなく、小さな敷地でも丁寧に計画すれば、端正かつ容量のある資産が形成できる具体例として成立しなければ、私たちの存在する意味がない。そんな中で、新たな魅力を派生させることで、現在は高齢者が多いこの街の未来に新たな住民層が加わり、少なからず発展的な住環境が形成されることを期待している。

天空率計算によって前面道路の斜線規制を回避した結果、4層までを同じ基準階とし、型枠をギリギリまで転用しながら厳しいコストの制約をクリアしている。前面道路との緩衝地が設けられないので、賃貸部分を前面道路の視線より高く設定するために、4層の各床は、すべて室内で階段状になっているが、その床下の有効を配管スペースとし、縦配管はすべて建物の外部に露出させている。各階はシンメトリーに2戸の住戸を配しているが、その中央の間仕切りを乾式として躯体に参入しないかわりに、柱を袖壁としてリブ状に室内に突出させることで構造的に成立させている。この躯体自体が持つ構造的な特徴を、小さな空間の有効性に加担させるために、室内の使用目的が限定される浴室やトイレ等の場所を、すべて躯体が創り出した際の部分に押し込んで、たとえば浴槽は床下、トイレは袖壁の中から引き出して使用するというように、利用するとき以外は空間に突出しないように工夫した。

(内海智行)



所在地:品川区
構造:RC造 地上5階
用途:共同住宅
内海智行/ミリグラムスタジオ

全景。テラスのがらり戸は銅管。経年変化も魅力的な材料である エントランス。グランドレベルから下がったアプローチを通して中に入る。オリジナルのポストボックスも個性的 賃貸部分。北側入口方向を望む。バスルームは床に埋め込まれ形になっている 賃貸部分、南側スペースを望む。リブが張り出した壁を利用してコンクリートのキッチンカウンターが設けられている 賃貸部分。バスルームの反対側に並んだ扉の中に、トイレ、洗面コーナーが納められている 6階LDKからの眺め 7階バスルーム 6階螺旋階段出口と夜景 (撮影:平 剛)

延命寺庫裏 新築工事

先端の町で今も息づく、江戸時代の寺

この地で由緒ある寺の庫裏の新築工事である。外壁塗装も行なった。外壁は塗り壁で、目地をいれ、伝統的な要素をほどこした。1階には檀家が集まる和室がある。2階はマスターベッドルーム、3階に娘さん世帯が入っている。質疑応答はかなりの密度で行なった。天井高もあり、「洞窟のような空間」を希望された施主のこだわりに応え、表情豊かな空間に仕上がった。

(石川 倬)

所在地:渋谷区
構造:RC造 地上3階 (一部2階)
用途:事務所・庫裏・住宅
設計:石川倬 / 石川設計工房



南側全景 北側入口 1階和室より坪庭を臨む。住職の希望された円形の床の間 3階和室。屋根裏床の構造をあらわにした天井。



神宮前

石川 倬 / 石川設計工房



石川 倬 (いしかわ たく) profile

1951年 東京都 生まれ
 1974年 日本大学建築工学科卒業
 以後、設計事務所勤務
 1979年 石川設計工房開設 現在に至る

主な作品
 病院関係、大使館、商業ビル、学校、共同住宅、専用住宅
 など多数。

今月は、延命寺の庫裏新築工事を設計され、辰で新たなビルの施工も予定されている、石川倬氏にご登場いただきます。神宮前の事務所にお邪魔してお話を伺いました。

石川さんは、ここ神宮前、原宿周辺でのお仕事を長年続けていらっしやいますね。

石川:そうですね、独立して自分の設計事務所を持って今年で17年、それ以前も原宿にある事務所に10年間勤めていました。高校時代にも住んでいましたし、この町の移り変わりはずっと見てきました。VANジャケットがあって、キディランドがあり、コーヒーのレオンはデザイナー達の溜まり場だった。メンズファッションのパークレー、青山通りには路面電車。それでも30年前は人通りはそんなに多くなく、日曜日に表参道を歩いている、出会うのはせいぜい数人、それも外人ということが少なくありませんでした。木造の教会があって、アメリカの色合いがある住宅地でしたね。それが20年前くらいからアパレル関係の大型店舗が建ち始めました。まずパレ・フランセ、そしてラフォーレ原宿ができ、一挙に人の流れが増えましたね。

そうでした。表参道なんて、静かでしたよね。

石川:原宿の地元の人には派手でもなんでもなく、ごく普通の下町の人たち。人情味あふれる昔ながらの暖かい関係が残っています。私自身、そういう方たちのご縁でずっと仕事をやってきています。来るものは拒まずで、いろいろな建物を設計しています。

仕事の上でいつも気にしているのは、工法や材料、ローコストであるなしにかかわらず、「有機的な建物」を目指しています。

有機的、といいますと?

石川:精神的な安らぎ、思いやりのある建物ですね。構造ももちろん大事、安全性は最優先です。

例えば今度建てる事になったビルも、街並みに対する有機的なエレメントとしてルーバーを用いたのですが、目隠しとして隣接するマンションに配慮した結果です。仕上げは打ち放しと石貼りです。建物自体の柔らかさを大事にしています。

今回辰が増築工事の施工をさせていただいた延命寺は随分と由緒あるお寺ですが、周りにはアパレル系のオフィスビルやデザイン学校などがどんどん建っています。昔は今の山手線の敷地にも延命寺のお墓があったくらい広がったそうですが、そういう状況についてはどうお考えになりますか?

石川:後からやってきた住人はお墓などがあると嫌がるかもしれませんが、私は家がお墓やお寺に面しているのは、悪くないと思いますよ。「お墓に面していて怖い」という人もいるかもしれないけど、死んだ人は生きている人に何もできませんから(笑)。それより、日当たりもいいし、景色もいいし、都心にこういう広い空間があることは環境としてとてもいいことです。江戸の名刹と呼ばれる上野寛永寺、芝増上寺、音羽護国寺などで、今、江戸の名残を残して当時の広さを確保しているのは護国寺くらいのものでしょう。なるべく広いスペースは残しておきたいものです。

延命寺のご住職が また面白い方ですね。豪快な気質でいろいろな人ともお付き合いがあり、こちらもいろいろと勉強させてもらっています。寺の入口には毎日の心得がかけられて、日々の生活に密着したものが

あります。例えば私が気に入っているのが、「暑い寒いのはいつかは年をとる」。そんなに文句ばかり言って暮らしていったってしょうがない、ということですね。そういう場所は大事にしていくべきだと考えます。逆に、自分が建物を建てる立場で言えば、近所の人から「あの建物はあっていい」と思われる仕事をしていきたいですね。

—石川さんが建築家になると思ったのはいつごろですか?

石川:私は早かったとおもいますよ。中3くらいにはもう決めていました。というのは父が素人ながら、雑誌「新建築」を講読しているような人でしてね。自宅を建てる際に、出入りの大工に雑誌を見せて「こういう風にやってくれ」と、吹き抜けもあるような、当時では随分モダンな家を見てさせたんです。だから設計という仕事にはとても興味があった。でもスポーツも好きでした。高校時代はスキーでインターハイや国体にも行きましたから、大学へ進学するときは勧誘も来て、進路は迷いましたね。しかし仕事にするならやはり建築をやりたいと、一浪して日大に入りました。

受験ギリギリまでスポーツに打ち込んでいらしたでしょうから、建築学科みたいに難しいところは現役では大変ですよな。

石川:設計の仕事は、図太さと繊細さを兼ね備えていなければならない仕事です。一つの建物を作る際にも言えることだし、事務所を持ち職業としてのモチベーションを維持しなくてはならない点でも重要なポイントです。

今の若い人の中には、せっかく独立しても仕事を続けられず、結局会社に入りなおすというケースも多いと聞きます。先日メーカーの営業マンから聞いたのですが、設計事務所もずいぶん引越したり、無くなったりしている、とのこと。設計はお客さんにリピーターが少ない業界です。同じ人が家を建ててもせいぜい2回。だから、私はいろいろな仕事をする仲間たちと協力して地道に仕事をしていきたいですね。

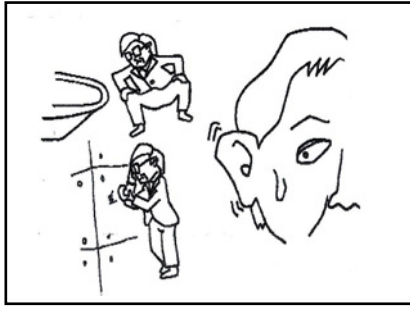
表参道も大きく様変わりしていきますね。

石川:大学の卒業制作は「同潤会の再生プロジェクト」でした。その意味でも今後の変化には大いに注目していきたいと思っています。

どうもありがとうございました。



千駄ヶ谷川上ビル新築工事
 予定図



問題はない。検査は、建物規模や検査官によつて、ときには一日がかりになることもある。

八月二十五日(木)
今日こそタイル工事を決めようと思つていたら、やはり台風はやってきた。雨で中止、職人三人くらいを残し、内部でできる部分を行なう。
午後から消防検査。電気、設備業者、避難器具業者、設計の先生、施工の我々、そして消防署の検査官二人が集まる。キッチン廻り、区画など消防法に準拠しているかどうか確認する。所要時間一時間ちよつと。それほど時間はかからず、

で説明することもない。入居希望者のお客さんが十組ほど訪れる。一人やけに熱心に隅から隅まで見ているスーツ姿の人がいる。あとで設計の先生に誰なのか尋ねたら、某施工会社の営業マンだという。内覧会の案内は出していないと先生はおっしゃっていたが、普通内覧会に、一人でスーツ姿の中年男性が来ることはまずない。どんな感想を持って帰っていったのだろう。
八月二十八日(日)
最後に土間の左官工事が残った。



中川 伸一
内覧会を前に忙しい日々
その会場に現れたのは

八月二十四日(水)
担当している大井町プロジェクト(ソルレヴァンテ)は八戸が入る地上三階建てのコンクリート造の集合住宅。引渡しは三十一日、もう時間はない。月曜からブロック、シーリング、造作大工、左官、ガラス、ボード、電気、設備など数多くの職人が現場に入っている。特にテスティングで十人くらいは職人が入っていた。タイル工事には四人。天気は良くない。ごみ出しが大変だ。ごみ回収車が来るまで外廻りの工事があまりできない。植木屋に半日待ってもらうことに。会社からは「終わるんだろうな」という一言だが、プレッシャーがかかる。

八月二十六日(金)
役所検査。区役所の建築課の人が一人。残りは昨日と同じ、電気、設備、設計、施工のメンバー。全員で現場を確認する。特に問題はなかった。
八月二十七日(土)
昨日雨で延びた階段と玄関廻りのタイル工事を職人を五人入れて午前中になんとか仕上げ上げる。
午後一時から五時まで不動産会社主催の内覧会。テーブルを用意して、待機。施工の自分たちは、特に表

木製建具、塗装のダメ直し工事を行う。
八月二十九日(月)
施工検査。残工事リストを作る。見積りの増減の計算も大変だ。引渡しの三十一日まではこの調子だ。
この工事は思ったより工期が延びた。出だしが響いたのだが、一ヶ月ちよつとかがつてしまった。敷地・建物自体が直角ではなく、それぞれの壁のずれ方、収まりが複雑な箇所が多かったのだ。型枠の細工もそれだけ手間がかかった。工程を無理して合わせるために、人間をいっぱい入れても要求されている打ち放しの精度を保つのは難しい。人海戦術はとらなかつたが、その分最後が厳しくなった。職人との関係も、冗談が言えていないくらいはいい。予定が狂ってくる。「また中川さんに殺されちゃったよ」と言われる。板ばさみになるのが辛いところだ。
八月三十日(火)
八月は休みがなかった。二月のクリニックの竣工前も半年間、休みがほとんどなかった。この後、もう一つの現場の引渡しが待っている。一息つけるのはその後だ。

1958年生まれ 東京都出身
趣味: 忙しくて、今は何もない
休日: 寝ているか、家族サービス
担当した主な物件(設計者)
Quattro Porte (佐藤万芳)
神宮前5179(桑原聡)
タカハシクリニック(日埜直彦)
大井町PJ solevante(野口信彦)
Gアパートメント SCARETTA (内海智行)

TOPICS/INFORMATION

「(仮称)千駄ヶ谷川上ビル新築工事
地鎮祭」 渋谷区 10月5日
構造: RC造 地上3階
用途: テナントビル
設計: 石川倬 / 石川設計工房
完成予定: 2006年4月



「エーピーエム西六郷工場新築工事
地鎮祭」 大田区 10月14日
構造: 鉄骨造 地上3階
用途: 工場・事務所
設計: 森吉直剛 / 森吉直剛アトリエ
完成予定: 2006年4月



「辰和会ゴルフコンペ」
千代田CC 10月9日
社員および関連会社の参加により行われた恒例のコンペ。優勝は森村、準優勝小島(シンケンビルサービス)、3位内海でした。



「TS 集合住宅 上棟式」
港区 11月1日
構造: RC造 地上6階
用途: 共同住宅
設計: 渡辺真理 / 設計組織A.D.H
完成予定: 2005年12月



「結びの家 S邸」が『新建築 住宅特集』11月号に掲載されています。
木下道郎 / ワークショップ設計のS邸が、p96「特集 多世帯で暮らす <松原duplex>」に掲載されています。ぜひご覧ください。
なお、この建物は10月30日、IID世田谷ものづくり学校の1周年記念イベント「第1回世田谷くらしかた大賞」のグランプリも受賞しています。